

議事要旨	会議名：北九州ESD協議会・令和3年度第2回運営委員会		
日 時	令和3年7月28日（水）18:00～19:30	会 場	まなびとESDステーション（ZOOM）
配布物	<ul style="list-style-type: none"> ・「2021 北九州 SDGs 未来都市アワード」の募集要項 ・「令和3年度 チーム活動推進事業」の会員向け募集案内 ・北九州ESD協議会 チーム活動推進事業募集要項 ・令和3年度 チーム活動推進事業申請書 ・令和3年度 チーム活動推進事業 事業収支予算計画書 ・「運営委員会の在り方」委員意見 ・第34回ツキイチの集いチラシ 「ちょっと待った！その食品、本当に捨てても大丈夫？」 ・（ユース向け）「環境先進企業見学ツアー」チラシ ・「環境セミナー2021 福岡大学」チラシ ・聞き書きでのこす門司の記憶「未来への伝言」新聞記事 ・ESD-Jからの三宅（理事）への依頼事項 ・第1回運営委員会 議事要旨 		
出席者	所属	氏名（敬称略）	
	北九州ESD協議会運営委員会	日高京子・坂元光男・渡辺いづみ・三宅博之・川島伸治 上永陽一・服部祐充子・原賀いずみ（ZOOM）・江藤直子・ 佐藤信幸・岩谷かおり 北九州市：稲田佳代子 事務局：高橋誠一・山中美鈴 オブザーバー：下田泰奈	
要 旨	<p>【議題】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 「2021 北九州 SDGs 未来都市アワード」の募集について 2 「令和3年度 チーム活動推進事業」の募集について 3 新規会員入会について 4 ESD協議会「運営委員会の在り方」について <p>【報告】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 各プロジェクト報告 <ul style="list-style-type: none"> ・ステークホルダー活動推進プロジェクト ・ブランディングプロジェクト ・人材育成・発掘プロジェクト ・調査研究・国際プロジェクト ・イベントプロジェクト 2 事務局報告 <ul style="list-style-type: none"> ・「環境セミナー2021 福岡大学」及び「（ユース向け）ESDカフェ」 ・（ユース向け）「環境先進企業見学ツアー」 		

	<ul style="list-style-type: none"> ・聞き書きでのこす門司の記憶「未来への伝言」 ・幼稚園、市民センターへの出前講演 ～講師（ユース） ・SDGs 図書館大作戦 ・グリーンギフト特別会計について <p>3 その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ESD-J 発表について
<p>議題 1</p>	<p>委員長：2021 北九州未来都市アワードの募集について、事務局から説明いただく。</p> <p>事務局：2021 北九州 SDGs 未来都市アワードは、今年度 4 回目で北九州市の環境局及び企画調整局、ESD 協議会で実施予定。内容については、応募資格等は資料の通り。企業部門は昨年度と異なり SDGs 賞の方が、PR しやすいという話を受け、SDGs 大賞と SDGs 賞のみで、SDGs 賞の数を増やしている。</p> <p>選考の方法については、昨年同様、一次審査について、運営委員の皆様には審査をお願いしたい。</p> <p>事務局：昨年度 ESD 賞を受賞した本城東幼稚園が NHK テレビで取り上げられた。それにより、近くの市民センターや、他の幼稚園からそのような取り組みをしたいという声が上がっており、アワードが広く認知されているという状況になっている。KICS（循環経済研究会）でも、例会等でも取り上げていただくということになっている。</p> <p>委員：予算はどうなっているのか。</p> <p>事務局：協議会は、チラシの作成と、ESD 賞の副賞分で予算は 25 万円である。</p> <p>委員長：承認とする。</p>
<p>議題 2</p>	<p>委員長：令和 3 年度のチーム活動推進事業の募集について、事務局に説明いただく。</p> <p>事務局：5 月の運営委員会で、チーム活動推進事業の要綱については承認いただいた。それに基づき、今回、令和 3 年度の地域活動推進事業の募集をする。</p> <p>スケジュールは、募集期間を明日の 7 月 29 日から 8 月の 30 日までとする。運営委員による審査を 9 月 1 日から 16 日。決定を 9 月 22 日の第 3 回の運営委員会と考えている。</p> <p>委員：このチーム活動推進事業の予算は。</p> <p>事務局：前回の運営委員会のときに予算については予備費を充当することでご承認を受けている。また総会資料においても事業計画の中で、アクションプランが総会で可決された場合に、チーム活動事業実施ということで承認をいただいている。今回、このチーム推進事業費に予備費を使い、実施する予定である。活動費として、1 事業上限 10 万。10 事業 50 万円と考えている。</p> <p>委員：予備費の予算は幾らか。</p> <p>事務局：予備費の予算は 50 万円。10 事業すべてが 10 万円ということではなく、上限が 10 万。</p> <p>委員：採用は、事業数を優先するのか。</p>

<p>議題 3</p>	<p>事務局：予算を優先する。今回初めて募集するので、何件の申請があるかわからない。予算の範囲内で次回の運営委員会でご協議いただきたいと思う。</p> <p>委員：周知方法はホームページだけなのか。</p> <p>事務局：全会員に募集の案内を郵送及び協議会ホームページにも掲載する。</p> <p>委員長：では、以上で承認いただきたい。</p> <p>委員：調査研究プロジェクトは承認しないと記録をお願いする。全会一致ではない。</p> <p>委員長：了解した。議事録にはそのように記載する。</p> <p>委員長：続いて、新規会員入会について、事務局に説明いただく。</p> <p>事務局：新規会員入会について、今回は 2 団体、北九州エンジョイント事業八幡西市民アカデミー「かがやき塾」、「ESD 推進いきいきシニア塾」から申請があった。</p> <p>委員：北九州市は市民センター、区全体、北九州市として 3 層構造であるなかで、区全体の部分をここで推進してきた。どちらかの市民センターとコラボでやることが増えており割と年齢層は高いが、地域活動 13 年目になる熱心な活動団体である</p> <p>委員長：2 団体とも承認とする。</p>
<p>議題 4</p>	<p>委員長：ESD 協議会「運営委員会のあり方」について、各委員の意見を述べて欲しい。私の意見は、幅広く意見を求める場であった方がいいと考える。若手の意見もぜひ取り入れてほしい。</p> <p>本日欠席委員の意見は、運営委員の人数は 5～10 人、カテゴリーは教育、行政、企業、任期は 2 年。選任方法は役員会より選出し、総会で承認。現運営委員からも意見はもらう。多様性を担保することが大切と感じる。専門とともに、世代も多様であることを期待する。実践している 10 代（高校生）や、大学生の参画にも期待。</p> <p>委員：私は、運営委員 5～10 人、カテゴリーは市民、ユースを含め教育、行政、企業。プロジェクトはまだ整理できていなかったのを外している。若い人をこの中にいれてほしいと思っている。任期は 3 年、選任方法は自薦でも他薦でもよく、運営委員会の意見を聞いて総会で承認する。</p> <p>委員：人数については、5 人から 10 人ぐらいと思う。</p> <p>カテゴリーについては、全員参加でいいと思う。任期は 2 年ぐらい。選任方法は、他薦がいいと思っている。</p> <p>委員：人数については、10 人程度。それ以上になると、なかなか議論が深まっていけないのではないかなと思う。カテゴリーについてだが、プロジェクトは今年度から少しずつ、用途が変わってくることから、選択しかねている。ユースを入れることには特別反論はない。任期についてだが、最低 3 年ぐらいが必要と思う。</p> <p>選任方法だが、できるだけ他薦が望ましい。特に市民活動者という点にアンテナを張って、やっている活動にもう少し重きを置き、できるだけ多くの市民から活動者を選んでいくことを重要視する。</p> <p>委員：運営委員の人数は、あまり多いとまとまらなくなると思われ、規模として 10 名程度</p>

が妥当と考えている。カテゴリーは、市民、教育、行政、企業。任期については2年で、当然内容によっては再任が可能だと考えている。その際のやり方については、また議論が必要ではないかと考えている。

選任方法は自薦、他薦、これも難しいやり方だとは思いますが、もう少し皆さんのご意見聞きながら、私自身、考えてさせていただきたい。

その他の意見だがこの運営委員会の「運営」というところは悩むところだが、要は組織の運営と事業があり、今のところ事業の運営ということで考え、他薦にした。

委員：人数については、現在の10人程度でいいと思っている。カテゴリーについては、市民、教育、行政、企業、その他でユースも入れてもいいのではと思っている。任期については2年で、役員の任期に合わせてもいいのではと思う。選任方法は自薦、他薦、その他。具体的にはカテゴリー毎に委員定数を定める。例えば市民枠に3名と定めた場合、自薦・他薦で5人の応募があった場合は、会員の投票によって上位3名を選出する。その他の意見は、「副代表が運営委員長となる」は、現行通りでいいと考える。

委員：私は運営委員の人数が10人から15人。次に必要なカテゴリーは市民、教育、行政、企業、プロジェクト。任期は2年で再任を妨げない。選任方法については、グループ内での自薦。先ほど言われたように、この協議会全体を運営するのか、今までのように、それぞれのプロジェクトを運営していくのかと考える。人から言われてやるのではなく、自分たちがどんなことをやりたいかということ、市民が一番大切だと思っている。グループ内での自薦が望ましいが、決まらない場合は他薦でもよい。

委員：運営委員の人数は上限が10人程度。カテゴリーについては分野として理解をするなら、一般的に17分野と理解されている。ESDという観点では団体会員の中でどのような方に委員を務めていただくかを先に考えた人数にすべきではと思っており、市民団体に加えて教育、行政という点では、環境局が中心なので、人権とか男女共同参画、子ども家庭局も考えられる。また、従来の地域中心のプロジェクトで市民センターや、調査研究国際プロジェクトもとても大事な部分と思っているが、ここまでの人数を考えるとどうか。任期についてはどこの委員会でも大体2年、再任を妨げないとして上限を定めているようだ。この激しい世の中の動きを考えると、やはり3年。任期2年で3回とすると6年になり長いのではと考える。選任方法だが、プロジェクトから各1人に加え、サブリーダーを置くことで、次期リーダーとしての人材育成にもつながっていくと思う。プロジェクト内の推薦で選任をし、行政、教育委員会は従来通り。それに加え、今、世界的に注視されているユースが運営委員として活動することも今後は必要だと考える。

委員：私は、人数をもう少し増やして、サブリーダーを置いて、運営委員会に参加するのがいいのではないかと。また運営委員だけで話し合うのではなく、意見を言うことだけでなくても会員の方、見たい方はオンラインで自由に見ていただければいい。運営委員会の中でどんな話がされているかを見ていただくことが必要じゃないか。カテゴリーについては、ユースとして若い方の意見入れていくべきだと思う。

また役員の方と違い、この運営委員というものは、実際、組織の運営をやっていくべく、それを協議する場なので、専属、充て職などではなく、専属の方でまわしていただきたい。任期については、役員と同じ2年で再任OK、3回ぐらいでいいと思っている。選任方法だが、プロジェクトやステークホルダーには関係なしに、自分が協議会をひっぱっていかうという認識を持った方にやっていただくべき。

その他の意見だが、新アクションプランには協議会の推進体制と活動拠点のあり方を協議するとあるが、運営委員会のあり方だけを協議するのはおかしい。協議も委員会ということに限定されているが、それ以外にも役員や事務局、そういったところも協議して、開かれた協議会とするためにも、会員の方からも多くの意見を募っていくべきと思う。また、運営委員会の目的や意義、運営委員長の権限など、会則には規定がされていない。その解釈・内容の見直しも今後協議していくべき。それから協議会のすべての事業、総会とか運営委員会、こういったもので承認、議決されたことを実施するということが、今の事務局サイドで運営委員会を通さずに、事業が進められるということがあるので、それは認められない。今後改善すべき。

また、議事録について、前回の運営委員会から2ヶ月間何もその調整なしに、議事録が出てきている。通常であれば、次の日、1日か2日で議事録ができて参加者の方に確認があるのだが、いきなり出るのは、おかしくないか。それから幽霊会員について会費制にして会員の整理を行うべきではないか。行政や教育委員会等の公共機関についてはオブザーバーという扱いにする。

委員：運営委員の数は10から15人。そのカテゴリーとしては、私自身は今のまま全部ということ。意見としては、若者を必ず2人ぐらいは入れていただきたい。これは強調しておきたい。任期は2年、再任を妨げない。選任方法については、自薦、他薦もどちらも入れてもいいのではないかと。団体会員からもどんどん出てきていただきたい。いわゆる会員になったら、やはりもっと参加意識を持っていただきたい。運営委員会が伝達的な形式的な会議になっている場合があるので、時間は考慮しながら、このZOOMなどで、希望する会員にだけ視聴できればと思う。私も運営委員になりたいという意欲を持った人が出てくるようにするためには、いかに画期的にするかを少し考案してもいいのではないかと。

委員長：今回は意見を伺い、具体的な議論は9月の委員会で行う。

委員：これらは、その2ヶ月に1回の運営委員会ですべてまとまるものなのか。アクションプランの中で、2025年までの5年間でやろうということなのか。

事務局：運営委員会の在りかだけについて5年かけて行うのではない。協議会の推進体制や、拠点のあり方とかについては、全部一緒にやっていくのは、整理しにくくなり、枠組みが崩れるので、まずはひとつずつということで、運営委員会の在り方から取り組んでいる。

委員：今回、ムーブフェスタで学生スタッフと、プロモートの学生さんとの事業を手伝い、ボランティア保険に加入してなかったことに終わってから気づいた。途中で事務局にお知らせはしたが、学生さんたちの安全・安心を確保する意味でも、やはりボラン

ティア保険は事務局がやっていただくなど、私たちがやる活動とつなぐ意味でもそのような制度的なものがあればいい。

事務局：協議会主催事業について、例えば「ツキイチ」などは、すべて協議会でイベント保険に入っている。協議会として、ムーブフェスタは会員の活動として広報はさせていただいたがムーブフェスタの主催者ではない。ムーブフェスタについて、主体はムーブになる。

事務局として、ESD 協議会が行う事業については、今までと同様にイベント保険に加入する。あくまで実施主体でということに対応する。

委員長：運営委員会の在り方については、9月の運営委員会で、内容を整理して議論することとする。

委員長：各プロジェクトの報告について

委員：ステークホルダー活動推進プロジェクトの「ツキイチ」は食品ロスについて、8月29日に行う。学生が食品ロスのメニューを考えて栄養士さんなどに確認をとっている。ぜひ参加をお願いしたい。

委員：ブランディングは先月、未来パレットの編集委員会をした。次の未来パレットをどんなふうにするかということ話し合った。

委員：人材育成発掘プロジェクトは7月14日にミーティングを行い、市民センターを使って年内におしゃべり工房を実施しようという計画をしている。

委員：調査研究国際プロジェクトは7月8日に会議を行い、ESD教材の開発ということで、折尾駅が新しくなったことに伴い、図書館の話の関係者の方から聞こうということを進めている。次に、活動調査ということで、5月に地球交流クラブの方のインタビューを行った。

委員：イベントプロジェクトはエコライフステージが11月27～28日に決定している。6月に、まちのゼミナールを計画していたが、緊急事態宣言が発令されたため、6月20日に「エコ工作を楽しもう」だけを実施した。7名の参加があり、プロモート実習生（4名）に手伝っていただいた。

事務局：事務局からの報告で、「環境セミナー2021 福岡大学」は、今回、ユース向けのESDカフェを同時に開催する。7月24日に第1回目があった。環境局の中島部長がカフェの講師を務め、北九大、九州大学、西南大学等のから10人参加した。全5回で、延べ40人程度の申し込みがある。

次に、ユース向けの環境先進企業見学ツアーだが、6月18日に予定していたが、緊急事態宣言が発令されたため延期し、8月の31日に行くことになった。

次に、聞き書きでのこす門司の記憶「未来への伝言」は、「昨年行った市民センターの助成事業だが、とてもすばらしい冊子となっている。門司区の小・中学校に全部に配布していただいた。渡辺委員から補足説明をいただきたい。

委員：これは助成金事業を受けて、聞き書き講座からスタートした事業だったが、昭和28年の6月28日は門司では大水害が起こった日であり、今年同日、その日に合わせて

公開座談会を行い、この冊子を発表する場を設けた。12名の証言を載せているのだが、平均年齢が85歳となり、戦争のことも世界のことも、もう聞くのがラストチャンスに近づいてきている。これにはプロモート実習の学生の一人も、講座から参加していただき、原稿を書いて、編集させていただいた。そういう意味ではESD協議会のおかげで、こういう事業もできたということを報告する。

事務局：事務局の図書室にも置いている。ご覧いただきたい。

次に、ユースが講師の幼稚園、市民センター等への出前講演だが、本城東幼稚園が昨年ESD賞を受賞し、賞状を持参して時に、園長先生から保護者に対してESDやSDGsに関する話をして欲しいという話があり企画した。その講師をユースから希望者を募集した。自分たちでプレゼン資料を作り、自分たちの言葉で講演をすることで、人材育成も非常に役立つ事業として進めている。

本城東幼稚園のほか、下上津役幼稚園や貴船市民センターからも依頼がきている。講演は10月、11月に実施となる。事務局と一緒に資料作りを始めていきたい。

委員：ユースの方が専門的な知識もないのに、子どもや保護者に教えるというのはどうなのか。

事務局：資料をユースだけで作るという意味ではなく、事務局も一緒になってやるということにしている。専門的なところなどは、市の担当部署の方にも問い合わせ、一緒になって作る。

事務局：次に、SDGs図書館大作戦についてだが、こちらは、出前講座の一環として行っており、7月は小倉南区の市民センターのコーディネーター研修として行った

委員：この図書館大作戦は、約1年半、西門司市民センターの協力もいただき進めてきた。今回は小倉南区でコーディネーター研修として、SDGsのことを学びながらブックトークをするという形で実施した。参加者の皆さんは生き生きと語っておられ、今回、岩谷さんがコーディネーターとしてデビューした。一つの北九州ESD協議会の学びのツールとしていろんなところに普及していけたらと思う。

事務局：次にグリーンギフト特別会計の事業について、会員に実施希望者を募ったが、申し込みはなかった。現在のコロナ禍の中、環境体験イベントの開催はできない状況だが、代わりに、今期から新たに環境体験ツールの開発という新しい項目ができた。しかし、体験ツールは9月までに作らなければならない、すべての会員に投げかけて実施することが難しかったため、主な活動内容等を提出している団体をお願いした。一つは、絶滅危惧種カブトガニの曾根干潟での産卵の様子。それをビデオに撮り、ツールとして、DVDにして流すもの。もう一つは、身近なところから環境問題SDGsを実現しようということで、17の目標それぞれに対して、問題形式で資料を作り、それを子ども達に投げかけて答えてもらうという動画を作成するもの。8月末までに動画作成を考えている。

委員：そのカブトガニと身近なSDGsはどちらの団体が行うのか。

事務局：身近な環境問題SDGsの実践は、NPO法人の好きっちゃ北九州。カブトガニについては、日本カブトガニを守る会の高橋先生。

	<p>委員：高橋先生は、ジオ&バイオ研究会にも入られて、ジオ&バイオ研究会は、ESD 協議会のメンバーである。</p> <p>委員：DVD は何分くらいの予定なのか。</p> <p>事務局：カブトガニについては 30 分。もう一つは 1 時間程度。 その動画を流しながら ZOOM でイベントのようなものを考えている。ツールなので、各市民センターや学童クラブ等に UR 等を案内する、また、DVD を配布してイベントなどに活用してもらうことを考えている。</p> <p>委員長：ESD—J の発表について</p> <p>委員：ESD-J の理事であるため、10 月 23 日に ESD—J からオンラインセミナー実施を持ちかけられている。「これが北九州 ESD 協議会」というものを作って欲しいと言われている。公害克服を目指しての婦人会活動、コミュニティと ESD 繋がり、ジェンダー、平和学級などが考えられる。それと ESD をテーマとした韓国との交流、再生可能エネルギー開発への取組も考えられる。</p> <p>委員長：これは実際に協議会として今現在活動している内容と離れているが、そういうことを準備して行っていくことになるのか。</p> <p>委員：オンラインで、北九州の方でどういった ESD に取り組んでいるかというのを、特に全国の方へリアルタイムで紹介するということになる。</p> <p>委員長：今、気候変動の学習はやっていかなければならないし、再生可能エネルギーというのは重要になってくるとは思うが、北九州 ESD 協議会の中で積極的に取り組んでいて、それを教育にしようとしているメンバーはあまりいない。内容として面白いが、現在の北九州 ESD 協議会の特徴ではない。外していいのではないか。北九州で積極的に行っている出前講演等がいいのではないか。</p> <p>委員：出前講座はどこでもやっているのだから、北九州らしさというものをやってもらいたい。岡山などは公民館などの活動で出前講座をあたりまえのようにやっている実態がある。北九州は韓国との交流があるが、そのような国際分野でやっているところは他では少なく北九州の特徴として捉えられている。</p> <p>委員長：事務局と話し合っ内容を決めて欲しい。 報告は以上になる。次回の運営委員会 9 月 22 日を予定している。</p>
令和 3 年度 第 3 回運営委員会	令和 3 年 9 月 22 日（水）18:00～19:30
開催予定日	オンライン or 北九州まなびと ESD ステーション